

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
施設野菜專業經營 I	人 3.5	いちご株冷	a	1. 品種「ゆめのか」 2. 高設栽培 3. 株冷処理による早期出荷 4. 環境制御技術	
		いちご普通	20		
計	10	30			
		経営耕地面積	畑 30 a		
経営目標	1 農業総収入	25,654	千円	4 1日当たり農業所得	11,740 円
	2 農業經營費	17,235	千円	5 1人当たり年間労働時間	1,639 時間
	3 農業所得	8,419	千円		

2. 資本設備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
					千円	年	千円
建物・施設	ビニールハウス	3	連棟標準型APハウス 1,000㎡	1	19,584	8	1,224
	高設栽培施設	3	一式 1,000㎡	1	18,811	7	1,344
	高設育苗施設	3	一式 1,000㎡対応分	1	1,426	7	102
	重油タンク	2		1	314	7	22
	防油堤	2		1	368	25	15
	電照施設	2	電照施設一式	1	3,287	7	235
	予冷库	1	3坪	1	960	7	69
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 70㎡	1	3,780	24	158
	選果作業室	1	選果室 15㎡	1	810	24	34
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,080	24	45
		計				50,420	
農機具	トラック	1	軽トラック	1	917	4	115
	動力噴霧機	1	可搬式、防除タンク(500L)	1	268	7	19
	高設用耕耘機	1	1.6PS	1	141	7	10
	加温機	2	100,000kcl/h	1	2,074	7	148
	炭酸ガス発生装置	2	1600~2800㎡用	1	807	7	58
	多段階サーモ	2	加温機取り付け	1	185	7	13
	循環扇	3	一式 1,000㎡	1	528	7	38
	自動換気装置	2	1000㎡用	1	2,916	7	208
	統合環境制御装置	2	モニタリング装置込み	1	3,101	7	222
	局所施用装置	2	ダクトファン	1	1,980	7	141
		計				12,917	

## 3. 技術体系

(いちご 株冷)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(高設育苗) 親株植付け	親株床準備	11月上 ～11月下	高設育苗施設	2	12	24		高設育苗 プランタ使用 2株/1プランタ 専用親株 500株 250鉢×2株
施肥		11月上		2	2	4	肥効調節型肥料	プランタ施肥量(親株) 基肥 1B化成5粒/株 追肥 被覆燐硝安加里 (40日)7～8g/株
親株管理	ランナー配置 かん水 病害虫防除	11月上～ 6月中	かん水施設	2 1 1	35 3 3	70 3 3		ポット配置 14cm×14cm間隔 県病害虫防除基準による
鉢上げ	ポット準備 ランナー切断	4月～6月	トラック	2	58	117	10.5cmポット 10,000鉢	本葉2枚(発根初め)頃に行う 定植苗 7,500鉢 専用親株 1,000鉢 予備苗 1,500鉢
育苗ポット管理	かん水 追肥 摘葉	6月上 ～8月上	かん水施設	2	62	124	置き肥	N成分 100～200mg/ポット
病害虫防除	耕種的防除	2月下 ～9月上	動力噴霧機	2	27	54		炭そ病、うどんこ病の 防除を行う
株冷入出庫	花芽分化促進	8月中・下 ～9月上・ 中	株冷施設	2	13	26		入庫前日にかん水を行う。 庫内温度:15℃以下 コンテナはリース
(高設栽培) 床土消毒	太陽熱消毒 温湯消毒	7月下 ～8月中		2	4	8		最低50℃以上を目安とし 二週間程度ホリマルチで被覆
施肥	基肥施用  追肥施用	8月下  10月上 ～4月	トラック	2  1	4  1	8  2		高設用耕耘機の活用 全面施用 基肥成分量(マルチ前施肥込み) N 16.6kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 13.4kg K <sub>2</sub> O 13.2kg  12月と1月に鉄資材施用
定植準備	かん水資材 設置	8月下 ～9月中	トラック	2	3	6		

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
定植		9月上 ～下	トラック	2	28.5	57		栽植様式(2条、千鳥) 株間20cm 10a当たり 7,000株
マルチ		10月上 ～中		2	10	20	白黒ポリフィルム	マルチはうね肩まで上げ 天井ビニール被覆後 下げる
保温準備	ビニール張り	10月中 ～10月下	トラック	4	9	36	ビニール厚さ 0.075mm以上	暖房機の保守点検
管理	誘引 摘葉、玉だし 摘果	10月中 ～3月下		2 2 2	6 25 48	12 50 96		下葉かぎは古葉・黄化葉 等を中心に随時行う。 玉出しは着色向上のために必ず 行う。 摘果も品質向上のために行う。
交配	蜜蜂放飼	10月中～	トラック	1	2	2	蜜蜂	6aに一群
環境制御	保温、換気 炭酸ガス施用 光合成促進	11月上 ～3月中	トラック 加温機 統合型環境制 御装置 環境モニタリ ング 炭酸ガス発生 装置 局所施用装置 自動換気装置	1	73	73		二重カーテン設置 午後 27～28℃ 夜間 6℃以上 早朝加温(日の出前から日の出に かけて2時間程度。実温8℃程度) 設定地温16℃
	下温処理	3月中・下	動力噴霧機	2	2	4		下温処理 クレファン等のビニール塗布
かん水		9月上 ～5月下	かん水施設	1	35	35		定植後から十分にかん水を行 い、早期の活着を目指す。 また、栽培中はこまめなかん水 を行う。
病虫害 防除	薬剤散布 耕種的防除	9月下 ～5月下	動力噴霧機	2	25	50		県病虫害防除基準による
収穫出荷		11月上 ～6月上	トラック	3.5	402	1409		取扱は丁寧に行う 4月以降は品質向上のために 早朝どりを行う
後かたづけ	ほ場環境浄化	7月上	トラック トラクタ	2	10	20		
計						2313		

## 3. 技術体系

(いちご 普通)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(高設育苗)親株植付け	親株床準備	11月上 ～11月下	高設育苗施設一式 プランタ	2	12	24		高設育苗 プランタ使用 2株/17プランタ 専用親株 500株 250鉢×2株
施肥		11月上		2	2	4	肥効調節型肥料	プランタ施肥量(親株) 基肥 IB化成5粒/株 追肥 被覆燐硝安加里 (40日)7～8g/株
親株管理	ランナー配置 かん水 病害虫防除	11月上～ 6月中	かん水施設	2 1 1	35 3 3	70 3 3		ポット配置 14cm×14cm間隔 県病害虫防除基準による
鉢上げ	ポット準備 ランナー切断	4月～6月	トラック	2	58	117	10.5cmポット 10,000鉢	本葉2枚(発根初め)頃に行う 定植苗 7,500鉢 専用親株 1,000鉢 予備苗 1,500鉢
育苗ポット管理	かん水 追肥 摘葉	6月上 ～8月上	かん水施設	2	81	161	置き肥	N成分 100～200mg/ポット
病害虫防除	耕種的防除	2月下 ～9月上	動力噴霧機	2	27	54		炭そ病、うどんこ病の 防除を行う
(高設栽培)床土消毒	太陽熱消毒 温湯消毒	7月下 ～8月中		2	4	8		最低50℃以上を目安とし 二週間程度ホリマルチで被覆
施肥	基肥施用 追肥施用	8月下 10月上 ～4月	トラック	2 1	4 1	8 2		高設用耕耘機の活用 全面施用 基肥成分量(マルチ前施肥込み) N 16.6kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 13.4kg K <sub>2</sub> O 13.2kg 12月と1月に鉄資材施用
定植準備	かん水資材 設置	8月下 ～9月中	トラック	2	3	6		
定植		9月上 ～下	トラック	2	28.5	57		栽植様式(2条、千鳥) 株間20cm 10a当たり 7,000株
マルチ		10月上 ～中		2	10	20	白黒ポリフィルム	マルチはうね肩まで上げ 天井ビニール被覆後 下げる

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
保温準備	ビニール張り	10月中 ～10月下	トラック	4	9	36	ビニール厚さ 0.075mm以上	暖房機の保守点検
管理	誘引 摘葉、玉だし 摘果	10月中 ～3月下		2 2 2	6 25 47.5	12 50 95		下葉かぎは古葉・黄化葉 等を中心に随時行う。 玉出しは着色向上のために必ず 行う。 摘果も品質向上のために行う。
交配	蜜蜂放飼	10月中～	トラック	1	2	2	蜜蜂	6aに一群
環境制御	保温、換気 炭酸ガス施用 光合成促進	11月上 ～3月中	トラック 加温機 統合型環境制 御装置 環境モニタリ ング 炭酸ガス発生 装置 局所施用装置 自動換気装置	1	73	73		二重カーテン設置 午後 27～28℃ 夜間 6℃以上 早朝加温(日の出前から日の出に かけて2時間程度。実温8℃程度) 設定地温16℃
	下温処理	3月中・下	動力噴霧機	2	2	4		下温処理 クレファン等のビニール塗布
かん水		9月上 ～5月下	かん水施設	1	35	35		定植後から十分にかん水を行 い、早期の活着を目指す。 また、栽培中はこまめなかん水を行 う。
病虫害 防除	薬剤散布 耕種的防除	9月下 ～5月下	動力噴霧機	2	25	50		県病虫害防除基準による
収穫出荷		11月上 ～6月上	トラック	3.5	358	1253		取扱は丁寧に行う 4月以降は品質向上のために 早朝どりを行う
後かたづけ		7月上	トラック トラクタ	2	10	20		
計						2167		

